

ね もとつうめいぶん こ  
根本通明文庫

- 1 種 別 有形文化財（書跡・典籍）
- 2 名称及び員数 根本通明文庫 冊子本2,530冊 折本15帖
- 3 所 在 地 秋田市山王新町14番31号 秋田県立図書館
- 4 所 有 者 秋田県
- 5 説 明

根本通明は幕末から明治にかけて活躍した漢学者で、文政6年（1823）出羽国刈和野村（現大仙市刈和野）に生まれた。14歳から藩校明德館で学び、のちに教授となり、慶応4年（1868）明德館学長（助教）までつとめた。

のち上京し、その卓越した学問の力で漢学者としての地位を確立した。明治16年（1883）に斯文学会教授となり、明治19年には明治天皇御講書始にて御進講という名誉ある役目を果たしている。その後、帝国大学文科大学講師、東京学士会院会員、東京帝国大学教授となり、明治32年には秋田県人として初めて文学博士の学位を授与された。生涯を通じて家塾による門弟の養成にも尽力し、明治39年85歳で没した。

通明の蔵書は、明治40年に秋田県が一括購入した。蔵書は易学を中心として、「論語」、「詩経」、「老子」、「莊子」などに及ぶ。

中でも「論語」は、室町時代後期に書写された古写本である。本書は古活字版「論語」出版後に逸書となった、魏の何晏の古注を基にしたテキストである。

五経は、16世紀末期に出版された古活字版で、「周易」、「尚書」、「毛詩」、「春秋」、「禮記」を合刻した正文のみの無注本である。無注本は珍しく、五経が揃っているのは本文庫のみである。「禮記」には寿永一・二年（1182・1183）、建治二年（1276）の元奥書があり、明経博士であった清原家の訓点を写したことのわかる貴重な資料である。

また、「文選」は、上杉家家老の直江兼続が慶長12年（1607）に宋版に依って刊行したものを、寛永2年（1625）に翻刻した古活字版である。全巻に江戸時代前期の訓点書き入れがある。

根本通明文庫は印刷文化史上貴重なものが多く、中世から近世への漢文訓読の変化を見渡せる資料を含むなど、書誌学的に高く評価される。

#### 参考文献

慶應義塾図書館編『慶應義塾図書館蔵和漢書善本解題』文祥堂 昭和33年（1958）

田村巳代治『羽嶽根本通明・伝一秋田が生んだ天下の大儒』秋田魁新報社 平成9年（1997）1月1日

高橋 智「根本通明先生蔵書紀略—根本文庫研究之一—」斯道文庫論集 第三十八輯 平成16年（2004）2月

高橋 智「根本通明先生蔵書紀略—根本文庫研究之二—」斯道文庫論集 第三十九輯 平成17年（2005）2月



「論語」 室町時代写本

五経「禮記」 慶長時代刊古活字版

「文選」 寛永二年刊 古活字版